一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

2022年度事業報告
及び
2023年事業計画

2023年1月20日

2022年社員（会員）総会

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

2022年3月　社員（会員）総会

オンラインと現地参加のハイブリッド形式にて開催

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

日中国交正常化50周年　本会役員インタビュー記事

国　際　貿　易　　2022年5月5日

==日中国交正常化50周年に思う==

「感情」よりも「実利」を

厳　浩　EPSホールディングスCEO

日中国交正常化50周年を祝い、9月に記念特集号を発行します。それに向け月1回のペースで各界の方々に50周年への思いを執筆して頂きます。5月は、外国人が創業した企業を初めて東京証券取引所の1部に上場し、日本中華總商会の会長を歴任した厳浩氏に寄稿頂きました。

私が初めて「ナマ」の日本人を見たのは、田中首相訪中のときである。白黒のニュースフィルム越しとはいえ、スーツ姿の訪中団に大いに好奇心を掻（か）き立てられたことを、いまでも鮮明に憶えている。なにしろ、田舎の少年にとって日本といえば、それまでは映画や現代革命京劇に登場する旧日本兵ぐらいのものだったのだから、無理もないことだ。

「日本兵」と「田中首相」、「侵略」と「友好」。この相反する両者は私の日本原体験ともいえるものである。だからそれはよいものでもなく、といっていわゆる反日というほどでもない。50年も前、閉鎖的な文化大革命時代を生きていた我われの世代にとって、そもそも

もたらしたといえよう。統計を出すまでもなく、貿易や人的往来、そして情報の量も、ありとあらゆる面において両国間の交流は飛躍的に拡大してきた。昔を知っている人間からすれば、まさしく隔世の感である。この事実に異論を挟む向きは、少ないはずであろう。

他方、この間における両国の政治や外交関係に目を転じれば、変転が目まぐるしく、それだけに評価も難しいと思わざるを得ない。中国が文革の終息と改革開放政策で経済が急成長したいっぽう、日本は「ジャパンアズナンバーワン」を経てバブルの崩壊を余儀なくされた。そのような背景も作用してのことか、いまや両国の関係もすっかり様変わりしているようにみえ

る。私などは、その典型例ともいえよう。1981年に国費派遣留学生で来日したのだが、気が付けば、この地で人生の大半を過ごしてきている。今やかつての田舎少年も、ひとかどの「日本通」とみられたりするのだが、むろん日本という国は、とうてい「日本兵」と「田中首相」の対比で語れるほど簡単なものではない。中国とは規模こそ違え、日本もまた極めて奥の深い国である。知れば知るほど、そう感じることが多い。思うに、この隣り合う二つの国は長い歴史を通して、ときに相引き寄せられながらも、各々の自尊心がゆえに、ときに相剋も繰り返してきたのではないか。そして、「大和心」が「漢意（からごころ）」との対比で語られる

るを得ない。1日も早く改善してほしいと願うばかりだが、いっぽう、いまは「感情」に流されるよりも「実利」に基づく思考こそが求められているとも思うのである。

人民日報 海外版 4 Apr. 2022 日本月刊
PEOPLE'S DAILY OVERSEAS EDITION JAPAN MONTHLY

蕭　敬如　一般社団法人 日本中華總商会会長

華僑が国際交流の担い手に

日本の政治の中枢・霞が関にそびえ立つオフィスビルの間を通り抜け、エレベーターで9階まで上がると、ハイテク感に満ちた内装、最先端のドアシステムが面前に表れ、活力がみなぎるイノベーション企業だということを思わせる。9は、中国人にとって縁起の良い数字とされる。われわれは、階下に霞が関を見下ろす9階の会議室で、日本中華總商会の蕭敬如会長を取材した。

（文／本誌副編集長　張桐）

アジアの時代到来で日中が世界経済のリーダーシップを

船津　康次
トランスコスモス株式会社代表取締役会長兼CEO
日本中華總商会理事

トランスコスモス株式会社は、ネットからリアルまで企業と消費者をつなぐ全チャンネルをITアウトソーシングサービスで支えるデジタル時代の総合商社である。同社の会長兼CEOの船津康次氏は、かつて、孫文など中国近現代史における革命の志士たちと親交を深め、生涯のすべてを中日友好にささげた日本の外交官、船津辰一郎氏の孫にあたる。中日国交正常化50周年に際し、船津辰一郎氏の生きざま、今後の中日関係の展望などについて伺った。

（聞き手は本誌編集長　蒋豊）

祖父は「船津和平工作」で知られる日中友好の外交官

―― 日中友好促進のため、実際的な仕事をされてきた代表的な人物のお一人として、日中国交正常化50年に際しての思いなど、お話しいただけますか。

船津　個人的な話になりますが、私の祖父は外交官でした。明治から大正そして昭和の初めにかけ、外交官として人生のほとんどを中国で暮らしました。外交官を辞めた後も中国で暮らし、民間人として、日中友好のために人生を捧げました。

1937年7月、盧溝橋事件が発生しました。昭和天皇としては、日本と中国は仲良くしなければいけない、戦争は本当によくないという思いがあったようで、日本政府は当初不拡大方針をとっていました。それにもかかわらず、日本と中国が本格的な戦争状態に入っていく様相を見せ始めました。

緊迫した日中情勢を平和的に解決したい日本外務省の意向を受け、中国政府との和平交渉を託されたのが、当時民間人であった船津辰一郎という私の祖父だったのです。

祖父は外交官時代、香港、南京領事を経て、天津、上海などの総領事を歴任しました。長年にわたって中国各地で外交に携わっており、中国政府の要人をはじめ、数多くの有力者と幅広い人脈があったため、白羽の矢が立ったのです。

トランスコスモスチャイナの仕事風景

な文化の恩恵を受けているのです。

明治維新以降、中国は近代化、工業化を学ぶため、多くの留学生が日本にやってきます。その中から中国の近代化を推進する志士が出現することになります。

しかし、その後、日本の軍部による侵略戦争により、両国の友好交流は途絶えてしまいます。戦後、1972年になってようやく国交が正常化し、中国の改革開放政策の中で、日本の優秀な技術者たちが中国に協力する形で、経済交流を推し進めていくのです。

2000年以降、私自身、中国ビジネスに関わっていくのですが、悲しいかな、日本の経営者は中国のことを知らないと強く感じました。

高度経済成長期に日本は経済力をつけましたが、敗戦国である日本は戦後、常にアメリカの方を向いていました。国交がなかった中国に目が向いていなかったため、日本の経営者たちは、経済状況だけを見て、中国より自分たちは進んでいる、と中途半端に勘違いをしていた。つまり、中国に学ぶというセンスが欠けていたように思います。

国交正常化の後、中国の鄧小平副総理が来日し、当時の日本人は中

人民日報 海外版
PEOPLE'S DAILY OVERSEAS EDITION JAPAN MONTHLY

大きく経済成長する基盤を築いていたのです。

ご存じのように、中国は今では日本を抜いて世界2位の経済大国になりました。IT分野で日本は世界に3周も4周も遅れています。中国はIT産業をはじめ、電気自動車やドローン、AIの医療現場での活用など、圧倒的に世界の先端を走っています。

「日中共同声明」の中に「戦略的互恵関係」という言葉が出て来ますが、その精神を共有して、進んでいる中国と一緒に経済発展していこうという時代観を持つことが大事だと思います。

世界経済はアジアの時代が必ず到来する

―― 今後の日中関係をどのように展望していますか。

船津　日中関係は、10年、20年単位で考えず、100年単位で見るべきだと思います。そのくらいのスケールで中国は動いています。

国というのは一つの包むものだと例えることができます。その中で大事なのは動いている人です。ですから、ビジネスの場合もそうですが、人がしっかりつながって、同じ目標に向かって進んでいけば、多少その包みが破れても、つながっていけるはずだと思います。

ジア諸国連合）で、これはもう間違いありません。アジアの時代が到来し、世界経済の大きなセクターになっていくと確信しています。

その観点でいうと、今年はすごく大事な年です。2022年1月1日、RCEP（地域的な包括的経済連携協定）がスタートしました。日中韓プラスASEAN、10カ国全部入っています。これは世界の中でも、経済上の非常に重要なセクターになっています。RCEPの中で、最大の経済パワーを持っているのは当然中国で、2番目は日本です。日本と中国は、RCEPの中で、強い経済パワーを生かして、リーダーシップを取り、強国にしていく必要があると思います。

日中国交正常化50周年

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

9月：日中国交正常化50周年記念事業

華商経済フォーラム　ビジネスコンテスト　開催

日経XTECH Special　　日経XTECH　日経XTECH Special 一覧

日本発スタートアップを強力に後押し

華僑・華人が世界中のネットワークを駆使してビジネスを支援

日本中華總商会会長が語る
ビジネスコンテストを開催するワケ

シェア　ツイート　B!ブックマーク　Pocket

在日華僑・華人の最大の経済団体である一般社団法人 日本中華總商会が、日本発の優れたスタートアップを発掘する目的で「日本中華總商会ビジネスコンテスト 2022」を開催する。同コンテストで優秀な成績を収めたスタートアップには、中国グレーターチャイナおよび日本でのビジネスチャンスが訪れるだけではない。日本中華總商会は、世界各国の華人組織との連携を強めていると共に、コンテストの決勝大会の様子はそのような華人組織に向けてオンライン中継されるために、一気に世界に羽ばたける可能性をも秘める。日本中華總商会がビジネスコンテストに秘めた思いやその開催概要などについて、会長の蕭敬如氏に聞いた。

関西中華總商会が法人移行

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

3月30日（水）

関西分会の法人化は、總商会の中で初の試み

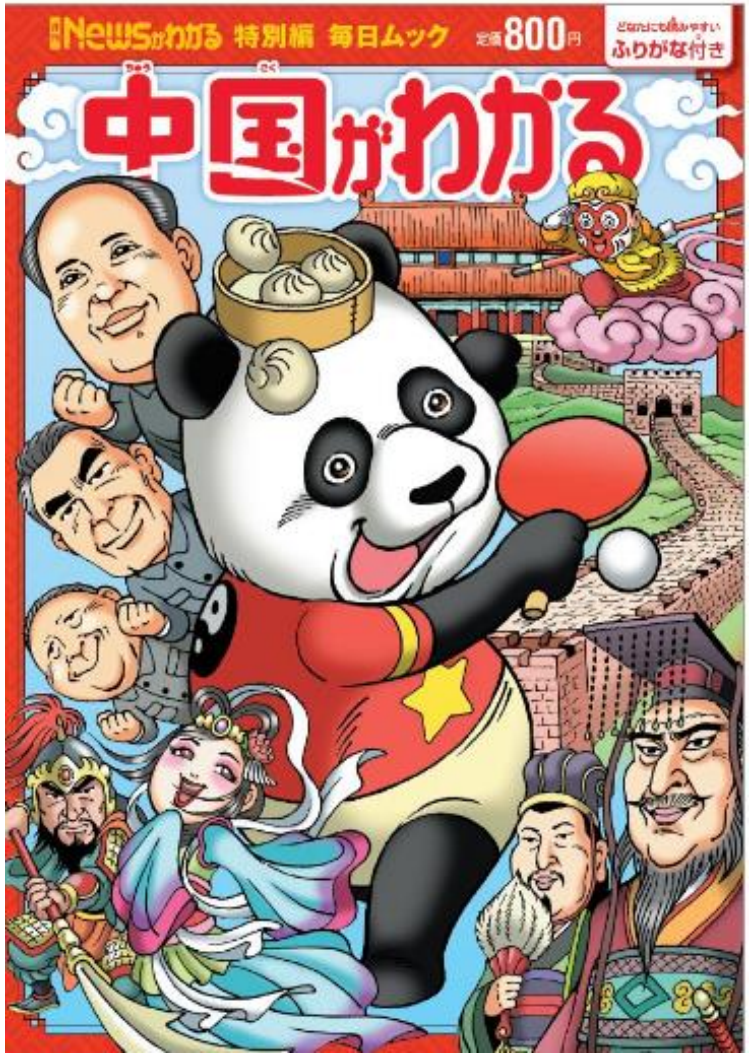
2022年度事業報告

毎日新聞社雑誌ムックを学校に寄贈

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

毎日新聞社の日中国交正常化50周年特別企画、小中学生向けの雑誌ムックに協賛して500部購入

日本華文教育基金会、睦新中文学校など中国語教育機関に寄贈



2022年度事業報告

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

CONTENTS

1 会員事業サービス（運営委員会）

2 対外交流事業（渉外委員会）

3 会員ビジネス支援事業（ビジネス創出委員会）

4 会の拡大と発展活動（会員増強委員会）

5 活動基盤の維持と発展（会務委員会）

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

会員事業サービス（運営委員会：船津康次委員長）

活動目的
◆会員同士の交流を深める ◆会員の事業発展 ◆ビジネスマッチング

委員会構成	
委員長	船津康次副会長
副委員長	陳熹、譚玉峰、孔怡、黒河靖彦、平田雅子、林秀燕、大城昭仁、郭健
委員	１９名

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

会員事業サービス（運営委員会：船津康次委員長）

活動内容		
例会	11回	オンライン実施
ビジネス交流会	2回	オンライン実施
	1回	対面実施
セミナー	4回	オンライン実施
企業視察	1回	オンライン実施
	1回	現地視察
	1回	宮城県　地方視察

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

会員事業サービス（運営委員会：船津康次委員長）

活動内容		
レクリエーション	2回	オンライン実施
	1回	ハイブリット形式
	1回	対面形式
	1回	宮城県視察
青年部会	4回	経営塾講義・企業見学
	1回	経営塾合宿
	5回	経営塾懇親会
	1回	経営塾忘年会

活動回数の増加、内容の多様化により、
さらなる会員サービスの充実へ。

運営委員会活動の様子

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

2022年から経営塾が開塾

日本中華總商会の会員二世や華僑華人若手起業家など
志を持った総勢14名の「一期生」を迎えました

塾長である蕭敬如会長の特別講演

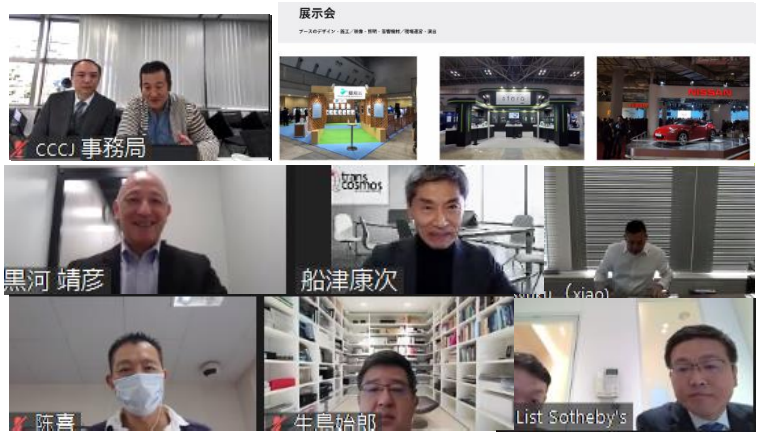
夏合宿での集合写真

2022年度事業報告

運営委員会活動の様子

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

ビジネス交流会の様子
テーマ「食品」



オンラインでの例会の様子

オンラインでのセミナー　講師：竹内亮

2022年度事業報告

運営委員会活動の様子

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

企業視察
株式会社セールスフォース・ジャパン

レクリエーションの様子
『五感で楽しむ東京都心の初秋』

企業視察＆レクリエーション、コラボイベント
漢方和牛・宮城県視察ミッション

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

対外交流事業（渉外委員会：徐志敏委員長）

活動目的
◆ 日本国内の経済団体との交流 ◆ 中国、世界各地の中華總商会との交流 ◆ 対外PR

委員会構成	
委員長	徐志敏常務副会長
副委員長	陳熹、潘若衛、許萍、方永義、段卓、何玲青
プロジェクト責任者	マレーシアPJ：陳熹、船津康次、王秀徳 中国PJ：潘若衛、許萍、段卓 海南島PJ：許萍

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

対外交流事業（渉外委員会：徐志敏委員長）

◆ 日本国内の経済団体との交流

活動内容	
日本青年会議所との交流会	2回 （4月、5月）

日中国交正常化50周年の記念すべき年にあたり、国内外・経済団体を問わず、多方面との交流・協力関係の構築を実施した。

2022年度事業報告

日本青年会議所主催イベントに参加協力

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

冒頭挨拶を行った蕭会長（左側）　　第2部で発表した徐常務副会長（右側）

4月30日、アジアアライアンス構築委員会「日中交流会」in横浜ホテルプラム

2022年度事業報告

一般社団法人
日本中華總商會
Chamber of Commerce in Japan

日本青年会議所主催イベントに参加協力

5月、日本青年会議所より要請、SIH高石大会で講演

SDGs Innovation HUB Business
Contest Asia-Pacific 2022

左：メイン会場の様子
右：実際のオンライン配信画面

2022年度事業報告

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

日中国交正常化50周年記念慶典に会員企業が協力

9月29日（木）実施：
記念レセプション・日中茶話会・記念式典の3部構成

会員企業有志が協賛【デジタルフォルン、EPSホールディングス、LaOX、トランスコスモス、ベース、盤古創富、伊藤忠商事、ジェー・シー・ディ（順不同）】
“人類の健康・地球の健康”分科会を
会員企業カンファレンスルームで開催した。

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

対外交流事業（渉外委員会：徐志敏委員長）

◆ 中国各地の政府・経済団体との交流

活動内容	
広東省江門市RCEPフォーラム参加	1月
広西自由貿易試験区　広西海外招商合作大会	5月
第19 回中国・アセアン博覧会日本企業-広西チワン族自治区交流会　参加	9月
ジャムス市投資貿易観光プロモーション会	11月

協力関係の構築及び強化

2022年度事業報告

広東省江門市RCEP経済貿易提携フォーラム

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

1月1日　広東省江門市政府と東盟-商務理事会共同開催の“華商対接RCEP 経貿合作江門峰会”に参加。日本中華総商会を代表して、RCEP発効後の日本企業とのビジネスチャンスについて発言。

2022年度事業報告

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

広西自由貿易試験区海外招商合作大会

5月27日　広西自由貿易試験区　広西海外招商合作大会参加　提携覚書締結

2022年度事業報告

広西チワン族自治区交流会

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

9月15日　第19 回中国・アセアン博覧会日本企業-広西チワン族自治区交流会にて提携覚書締結

2022年度事業報告

ジャムス市投資貿易観光プロモーション会

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

ジャムス市市長　丛麗様

日本中華總商会　厳浩理事長

11月22日　ジャムス市側会場の様子

日本中華總商会事務局の様子

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

対外交流事業（渉外委員会：徐志敏委員長）

◆ 世界各地の政府・中華總商会・経済団体との交流

活動内容		
マレーシア	マレーシア中華總商会との定期交流	3回
マレーシア	マレーシア中華總商会と日本企業交流支援	3月
香港	香港貿易発展局との交流	6月
香港	香港中華總商会との交流	2回

▼

協力関係の強化

マレーシア企業とのZOOM定期交流

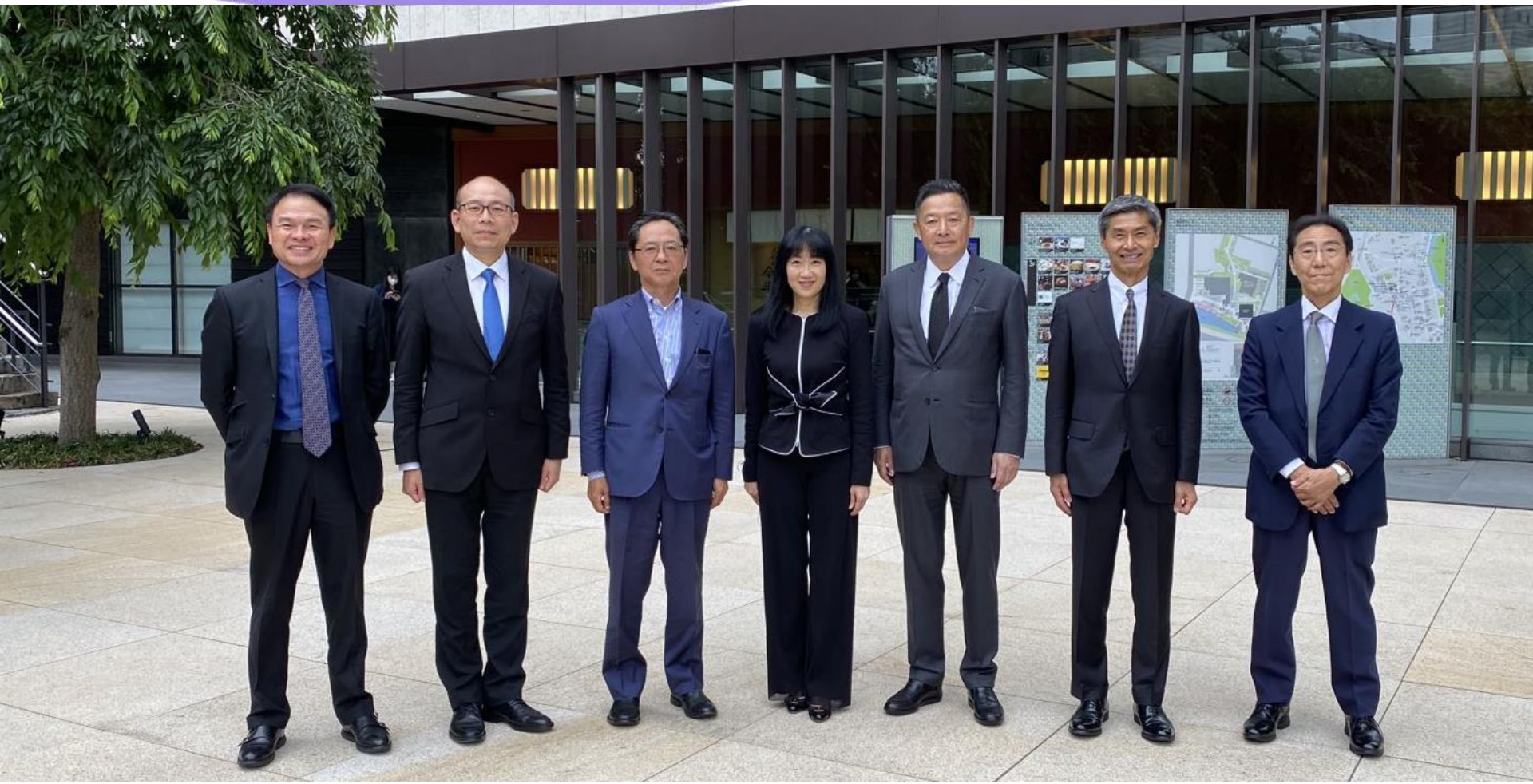
マレーシア中華總商会との定期交流会の集合写真

10月　マレーシア中華總商会との特別テーマ交流会が開催

マレーシア中華総商会と賛助会員検討企業の交流支援

3月4日、みずほ銀行吉浦アジア太平洋副支配人一行がマレーシア中華総商会を訪問。
卢成全会長及び幹部との交流を仲介。

香港政府との交流



6月8日、香港貿易発展局との交流
ご来日された方舜文総裁（左4）、遊紹斌日本主席代表（左2）、伊東正裕東京事務所長（右1）を囲んでの昼食会を実施

2022年度事業報告

香港中華総商会との交流

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

8月17日　香港高峰論壇2022にオンライン参加
テーマは「新格局下的区域合作新機遇（地域協力の新パラダイムにおける新たな機会）」

香港中華総商会 蔡冠深会長および事務局との交流

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

会員ビジネス支援事業（ビジネス創出委員会：尚捷委員長）

活動目的
◆ 会員事業の再構築 ◆ ビジネスモデル転換の支援 ◆ 起業/新事業立ち上げのサポート

委員会構成	
委員長	尚捷常務副会長
副委員長	王遠耀、譚玉峰、許萍、大城昭仁、郭健

第４回『華商経済フォーラム』

第4回『華商経済フォーラム』会場の様子

蕭敬如会長（開会の挨拶）

蔡冠深様（来賓代表挨拶）

CCCJビジネスコンテスト

CCCJビジネスコンテスト決勝戦2022　会場の様子

審査員と登壇者の集合写真

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

会員ビジネス支援事業（ビジネス創出委員会：尚捷委員長）

活動内容	テーマ	
ビジネスサロン	①ファッション・アパレル ②観光と飲食 ③健康・ヘルスケア・医療・化粧品・美容など ④専門サービス業	4回

▼

広範囲のテーマにて実施

ビジネスサロンの様子

ビジネスサロンの様子

会の拡大と発展活動（会員増強委員会：王遠耀委員長）

活動目的
◆ 会勢拡大と活性化 ◆ 企業への本会のPRと理解の浸透

委員会構成	
委員長	王遠耀副会長
副委員長	曹陽、張成煥、大城昭仁、佐々木健一

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

会の拡大と発展活動（会員増強委員会：王遠耀委員長）

活動成果	
企業正会員	38社
賛助会員	16社
個人正会員	３名
団体正会員	３団体

計６０社の新入会員
昨年より１８社増加

新入会員役員懇親会

会場の様子　ご講演者：蕭敬如会長(左側)、厳浩理事長（右側）

活動基盤の維持と発展（会務委員会：張宇藍委員長）

活動目的

- ◆ 本会日常運営にかかわる事務対応による活動基盤の整備と維持、会員と対外交流プラットフォームの維持
- ◆ 委員会が主導している事業活動のサポート
- ◆ 権限と責任を持つ執行委員会の指揮の下各種イベントのサポート
- ◆ その他理事会が指示した本会事業に係わる事務

委員会構成

委員長	張宇藍常務副会長
副委員長	庄旭、王秀徳、曹陽、朱映山、張佶
事務局長	佐々木操

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

活動基盤の維持と発展（会務委員会：張宇藍委員長）

活動内容
◆ 外部団体、中国政府（中央・地方）や機関団体、海外中華總商会との連絡、関係維持、関連イベントの対応等 ◆ ホームページ改修や、メルマガ、一般メディアを通じて、本会からの広報宣伝をより充実させる ◆ 新入会員の面接や手続き、オリエンテーション、各種の問い合わせ対応による会員様との関係の構築 ◆ 各種事業活動、理事会などの運営管理サポート ◆ 規程整備など本会の制度化、成熟化に向けた努力

新入会員オリエンテーション

2022年度事業報告

ホームページにおける会員専用ページの開設

4つのページを新たに開設

①業種別会員紹介（リンク：http://cccj.jp/?app=cccj_member）

②会員リクエスト（リンク：http://cccj.jp/?mid=143）

③過去の活動資料（リンク：http://cccj.jp/?mid=146&lan=ja）

④関連団体イベント（リンク：http://cccj.jp/?mid=157）

2023年事業計画

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

CONTENTS

1 会員事業サービス（運営委員会）

2 対外交流事業（渉外委員会）

3 会員ビジネス支援事業（ビジネス創出委員会）

4 会の拡大と発展活動（会員増強委員会）

5 活動基盤の維持と発展（会務委員会）

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

会員事業サービス（運営委員会：船津康次委員長）

方針

- ◆ 既存の活動の外、関連団体とも協力し、セミナーなどを通じて会員の視野を広げ、ビジネス機会の拡大に貢献する
- ◆ 対面式のイベント再開、著名ゲストの招待も視野に入れ、ビジネスマッチングを目的とした会員同士の交流企画をより活発化
- ◆ 賞月会などの再開とグレードアップを検討
- ◆ 経営塾の１期生と２期生との融合、海外総商会の若手世代との国際交流を通じて、日本中華総商会次世代の若い経営者の育成強化を目指し、ネットワーキングの場を広げる

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

会員事業サービス（運営委員会：船津康次委員長）

活動予定		
会員交流部会	例会	6～10回 （著名ゲストの予定により変動あり）
	ビジネス交流会	4回
企業視察セミナー部会	セミナー	2回
	企業視察	1回
レクリエーション部会	レクリエーション	9回
ビジネス開発支援部会	来期組織の方針に従って改めて計画策定	
青年部会	CCCJ次世代経営塾第一期　最終講座	1回
	CCCJ次世代経営塾第二期　講座（社会活動込）	7回

対外交流事業（渉外委員会：徐志敏委員長）

方針
◆ 日本各経済団体との交流をさらに広げる ◆ 中国、海外との交流を引き続き積極的に展開 ◆ タイで開催される第十六回世界華商大会へ代表団の派遣

対外交流事業（渉外委員会：徐志敏委員長）

活動予定(日本国内)
JCとの交流会
ASEAN中華総商会青商会との交流 、訪問（運営委員会と連携）
新経済連盟や日中投資促進機構などと交流を継続的に進める

一般社団法人
日本中華總商會
Chinese Chamber of Commerce in Japan

対外交流事業（渉外委員会：徐志敏委員長）

活動予定(海外)		
マレーシア中華總商会との交流会	オンライン交流会	2回
	対面交流（世界華商大会）	1回
他国の中華總商会との交流を、時期を見て展開予定		

活動予定(中国)
コロナの状況をみて、オンラインにて積極的に政府関係及び企業関連の皆様と交流を図る

会員ビジネス支援事業（ビジネス創出委員会：尚捷委員長）

方針
◆ 在日華僑華人の若者の企業支援 ◆ ビジネスコンテストの実施 ◆ ビジネスサロンの展開

会員ビジネス支援事業（ビジネス創出委員会：尚捷委員長）

活動予定	
ビジネスサロン	5～6回
ビジネスコンテスト	10月（予定）

会の拡大と発展活動（会員増強委員会：王遠耀委員長）

方針
◆ 企業へのPRを積極的に実施 ◆ 会員拡大を目指し、より一層努力を図る

皆様のご友人やお知り合いの
ご紹介・ご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。

活動基盤の維持と発展（会務委員会：張宇藍委員長）

方針

◆会員と関係性・交流プラットフォームの構築と維持

- 各種イベントのサポートにおける運営改善、効率化

◆会員の皆様の活動拠点として機能していく

- ホームページやメルマガなどを会員がビジネス支援ツールとして有効活用できるようサービス強化する

◆会の成熟化と安定運営を支援

- 各種制度や規程の整備、運営改善、効率化

展望

アフターコロナを見据えて、会員同士はもとより、日本国内、中国と海外との交流をさらに広げ、会員事業の支援をより一層強化していく2023年にしていきたいと思います。

会員皆様のより一層のご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げます

御清聴ありがとうございました。